

独自

菅首相に配慮した黒岩氏 宣言延長めぐる 4 都県の内幕

有料会員記事 新型コロナウイルス

2021年3月12日 19時00分



1月の緊急事態宣言後、菅義偉首相との会談を終え、取材に応じる4都県知事。左から神奈川県黒岩祐治知事、東京都小池百合子知事、千葉県森田健作知事、埼玉県大野元裕知事=2021年1月12日午後4時38分、首相官邸、恵原弘太郎撮影



2度目の緊急事態宣言につながった首都圏4都県の「ワンボイス」は崩れ去った。菅義偉首相が宣言の再延長を表明する直前の3日に開かれた、東京都、神奈川県、千葉、埼玉 3県知事の非公開会議。政府に宣言延長を求めるかどうかで意見が激しく交錯したやり取りの詳細が、複数の出席者への取材でわかった。

1月7日から続く緊急事態宣言の期限が3月7日に迫っていた。それぞれの知事の立場を分けたのが、菅首相との距離感だった。序盤に仕掛けたのは、神奈川県の黒岩祐治知事だ。同県を地元とする菅首相との縁は2011年の知事選で、自民県連会長だった菅氏が黒岩氏に出馬を口説いた時にさかのぼる。

「今日はまず非公開ということで、ちょっと本音ベースでしゃべらせてもらいたいなと思います」

3日の4都県知事のオンライン会議で、黒岩氏はそう切り出した。「こここのところの動きに不信感を持っています、正直言って」と前置きし、批判の矛先を小池百合子・東京都知事に向けた。

黒岩氏が問題視したのは、小池氏が2日、4都県の知事でコロナを担当する西村康稔経済再生相に面会すると提案したことだ。面会時に出すため都側が作成した文書案には、2週間の宣言延長を政府に要請する記載があった。

黒岩氏は会議で、この文書案には、大野元裕・埼玉県知事と森田健作・千葉県知事が延長要請に「了承」していると明示されていたと主張した。その一方で、黒岩氏が

森田氏に直接問い合わせたところ、森田氏が「黒岩氏が了解したって（都側が）言うから了解した」と説明したことを明かした。

神奈川県内は4都県の中ではいち早く政府の分科会の6指標で「ステージ4」（感染爆発）を脱し、3日時点で病床使用率はなお「ステージ3」（感染急増）ながら、ほかの指標はおおむね「ステージ2」（感染漸増）まで改善していた。黒岩氏は「神奈川だけみれば解除と言いたいくらい」とし、「ギリギリまで状況を見極めたい」と主張した。延長ありきで、政府に要請する文書案を作り、3県の同意を得ようとする都側の対応は、黒岩氏には受け入れがたいものだったとみられる。

批判の矛先を小池都知事に向けた黒岩知事。記事の後半では、非公開会議での詳細なやりとりを紹介します。

黒岩氏「総理の判断仰ぐことが筋」

「それは申し訳ございません」。途中で小池氏が謝罪するが、黒岩氏は怒りを抑えるような口調で「今回のことは、非常に大きく信頼を失うものだと思うを得ない」と続けた。そして「宣言延長したが、患者の数が上がった。そうした時に、次に切るカードがなくなっちゃう」と語気を強めた上でこう言った。

「総理の判断を仰ぐことが筋。小池知事はワンボイスとよくおっしゃる。だけど私は、ここに至ってはワンボイスでなくても良いと思っている」

東京都が2週間の宣言延長の方向で動いていることは官邸も察知。知事会議の前日の2日、菅首相は記者団に「専門家や関係者に相談し、最終的に私自身が判断したい」と語っていた。

1月7日に出た2度目の緊急事態宣言は、小池氏ら4都県の知事が年明けの2日に西村氏に宣言を要請したのが起点となった。小池氏ら4都県知事に迫られて、政府が宣言を検討した構図となり、菅首相は「後手」に回ったと批判された。

西村氏との1月2日の面会后、4都県の知事は記者団に「ワンボイス」を強調していた。黒岩氏も「1都3県、国が一体となって動かなければ駄目だ、その強い危機感の中で動いた。一つの大きな方向性を共有できた」と述べていた。

決断迫る構図こそ、小池氏の望みか

今回の宣言延長に関しても、菅首相は当初、慎重だったとされる。知事側が再延長を要請すれば、政府に再び政治決断を迫る構図になる可能性があり、それこそが小池氏の

望みだったとみられる。

だが、「ワンボイス」で宣言を要請した年明けの時とは違い、もともと菅首相に近い知事たちは、今回はその再現を許さなかった。

会議で、幾度となく「総理の判断」と繰り返したのが森田氏だ。会議があった当日、宣言延長をめぐる菅首相と直接やり取りをしていたとされる。

森田氏は会議で、「菅総理が最終的に判断すると述べている。その言葉に委ねてもいいのではないかと強調。「船頭がいっぱいいて、右だとか左だとか言うよりは、国が総理があそこまで決断して言っているわけですから」と菅首相の立場をおもんばかり、「必ずしも1都3県が一緒くたになる必要もないと思う」と黒岩氏に同調した。

結局、3日の会議では、宣言延長をめぐる対応はまとまらず、翌日に持ち越しとなった。その会議終了から約1時間後。菅首相は「2週間程度の延長が必要」と記者団に宣言延長の方針を表明した。神奈川、千葉の両県知事の「総理」への気遣いから、4都県の「ワンボイス」は崩れ去った。

緊急事態宣言の再延長をめぐるやり取りについて、黒岩氏は7日にリモート出演したフジテレビの報道番組で、小池氏に事実と異なる説明をされたと主張。3日の4都県知事の非公開会議で、小池氏から謝罪を受けたと説明していた。だが、3日の会議の詳細をたどると、その小池氏の謝罪の趣旨は、黒岩氏の受け止めとは大きくかけ離れていたことがわかる。

黒岩氏は7日の報道番組で、次のような小池氏とのやり取りを明らかにした。

小池氏が2日、提案していた西村経済再生相との面会時に出す文書案をみると、2週間の宣言延長を要請する記載があった。黒岩氏が「まだ話をしていない。他の知事は大丈夫なのかな」と尋ねると、小池氏側は、森田氏と大野氏も賛成していると答えたという。

ところが、黒岩氏が森田氏に電話で確認したところ、森田氏は「『黒岩さんが賛成するから』って（都側が）言うから、俺も賛成しようとなった」と説明。黒岩氏によると、大野氏も黒岩氏に同様の回答をしたという。こうした点について、黒岩氏が3日の4都県知事の非公開会議で直接抗議した結果、小池氏は「ちょっと先走ってごめんなさい」と謝罪した、と黒岩氏は報道番組で説明した。

小池知事「先走って混乱、お詫び」

複数の会議出席者によると、3日の会議で、実際に小池氏は「少し先走ったような形で、皆さまを混乱させてしまったことについてはお詫び申し上げます」と謝った。ただ、

小池氏が「先走った」として謝ったのは、自身が黒岩氏に事実と異なる説明をしたことではなく、西村氏との会談に向けて、都が「たたき台」としてつくった政府に宣言延長を要請する文書案に対してだったという。

小池氏は黒岩氏の報道番組での発言の翌8日、「準備段階の中で色々ある。そういう中で信義則は守っていきたい。色々考え方が幅広い中で、進めていくには文書のたたき台を作るというのはよくある話。事務方も含めて普通のやり方を進めていた」と述べた。また、黒岩氏が報道番組で主張した小池氏が黒岩氏と森田氏の双方に事実と異なる説明をした点について、小池氏は「森田知事とは直接連絡はしていない」と森田氏とのやりとり自体を否定している。

新型コロナ情報

[こちらで読めます>](#)

新型コロナウイルス最新情報 →

最新ニュースや感染状況、地域別ニュース、予防方法などの生活情報はこちらから。[\[記事一覧へ\]](#)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.